

情報統制 研究 集大成

近代日本のメディアの社会史研究に50年余り取り組んできた早稲田大名誉教授の山本武利さん(85)「八幡浜市出身」の著作集刊行が始まった。2028年までに全10冊を刊行予定。特に第2次世界大戦前後のプロパガンダや情報統制研究に力を入れてきた山本さんは「国内外の権力が国民の情報を都合よくコントロールするのは戦時だけでなく、現在も続く問題。日本や世界の動きを考える材料にしてほしい」と話す。

第1回配本の第7巻「米国の対日工作」(7月刊行)は「日本兵捕虜は何をしやべったか」「ブラック・プロパガンダ」などの著作を収めた。戦時中、米軍が日本軍捕虜から情報を得た謀報(ちようほう)活動や、日本本土に向けて発信したラジオ放送の実態を明らかにした。過去の著作

刊行が始まった全10冊の山本武利著作集



早大名誉教授 山本さん(八幡浜出身) 著作集

を最新の知見を加えて再構成し、新たな書き下ろしも加える予定。



山本さんは1940年、八幡浜市若山に生まれ一橋大学学院を修了。東京大新聞研究所で明治期の新聞読者の研究からキャリアをスタートした。著作は単著約20冊、共著や雑誌寄稿など200点に及ぶ。現在もNPO法人インテリジェンス研究所理事長として研究を続けている。

戦前、戦中の研究に力を入れた理由は、家族の歴史に根ざしている。戦争末期に応召した父はシベリアに抑留され帰らず、母は6人の子どもを苦勞して育てた。「日本人は情報操作に弱い。国内外に多大な犠牲を生んだ過ちを二度

戦時資料で実証 50余年

50年余りの研究成果を収めた著作集の刊行に着手した山本武利・早稲田大名誉教授(オンライン取材)

と繰り返してはならない」

国内外の資料館、図書館を訪ねて資料を収集し解釈する徹底した実証研究が持ち味。米メリーランド大では戦後の占領期、米軍が検閲のため収集し、米国に持ち帰った日本の雑誌や刊行物を所蔵しているプランゲ文庫を調査した。発行禁止となり日本に残っていない多数の資料を発掘、データベース化し、戦後史の研究発展に寄与している。

絶版となった初期作品も含め、現在も需要が多いため著作集の企画が持ち上がった。山本さんは「出版業界が厳しい中、集大成を世に出す機会をもらえてありがたい。全て出典を記し論拠を検証できるので、後世の研究に役立ててもらいたい」と願った。

各560ページ程度で9680円。書店で注文できるほか、文生書院ホームページ(<https://www.bunsei.co.jp>)から購入できる。問い合わせは文生書院(電話03(3811)1683)。(今西晋)